

最終更新日 H24.10.24
調査・診断技術 No. 22101001

性能分野	環境・省エネルギー性能		
大分類	現況調査・診断（問題点等の把握）		
中分類	室内環境		
技術の名称	居住者へのヒアリング・アンケートによる予備調査		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住者より不具合などの報告があった場合は、全戸にアンケート、ヒアリング等を行い問題点を把握する。</li> <li>・一つの住戸で問題が発生している際は、他住戸でも同様の問題が発生している場合も多く、住棟全体での共通の問題を発見し、省エネ改修のきっかけとなる。</li> </ul>		
調査・診断技術の概要	<p>【主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暖かさ、寒さ、明るさなどの室内環境の状態、結露・カビなどの発生状況、設備の不具合等について、居住者へのヒアリングやアンケートから、現状の問題点等を把握する。</li> </ul> <p>【具体例】</p> <p>「Residence Doc(マンションの快適性診断)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ上で展開する部位別の問題把握のための診断サービス。</li> <li>・居住者自らが、室内、窓、床などの部位ごとに、問題点にチェックを入れていくことで、原因の例と対応策、省エネ効果・コスト効果を確認することができる。</li> </ul> <p>(診断の手順)</p> <p>部位症状チェック 診断 原因の表示 解決策の閲覧</p>  <p>&lt; 出典：(一社)日本建材・住宅設備産業協会 HP &gt;</p>		
共同住宅のタイプと適用できる技術	技術の種類	調査・診断技術 改修技術（ 劣化を補修する技術 性能を向上させる技術）	
	共同住宅のタイプごとの適用可能性	S55 年以前供給 中層階段室・壁式(総プロA1)	使われる可能性が相当ある
		S55 年以前供給 高層・ラーメン(総プロA2)	使われる可能性が相当ある
		S56～H2 年供給(総プロB)	使われる可能性が相当ある
		H3～12 年供給(総プロC)	使われる可能性が相当ある
		H13 年以降供給(総プロD)	使われる可能性が相当ある
	(補足)		

この調査を実施した後に利用される可能性のある改修技術		
技術が適用される建物の部位		共用部分 ( 躯体・外壁 屋根 建具 設備・配管等 その他共用部 ) 専有部分 ( 設備・配管 その他専用部(断熱材) ) [ 破壊・微破壊した部位の復旧が必要 ( ) ]
団地で適用した場合のメリット		住棟まわりの土地が利用できること(仮設以外)( ) まとまった土地が利用できること(仮設以外)( ) 住宅の数が多く密度が高い( ) 特定の設備があること( )
足場の設置が必要		必要 不要 ( )
調査による居住者への影響	数日以上居住できない住戸が発生	該当 非該当 ( )
	一時的な影響が発生	断水などライフラインが一時的に利用不可 振動 騒音 粉塵 臭気 その他専用部分又は専用使用部分に対する制限 ( )
当該技術が利用される調査		居住者等が実施する調査 専門家が実施する調査 ( 不具合発生時 定期点検 調査・診断 耐震診断 省エネ )
技術的限界		
参考資料	技術情報	・「Residence Doc(マンションの快適性診断)」(一社)日本建材・住宅設備産業協会 HP
	価格情報	